



好きです 三木町

緊急報告

ポートピアは町にやってこない



五年に渡る反対運動のシンボルである大看板を撤去して終結を祝う住民たち  
組織に属さない個人と個人が「ポ - トピアは来ないでほしい」という一点でつながり行動した結果です。

みんなでやってきたこと：

- 数字でまとめてみました
- 反対署名： 八団体総数 31,675 名
- 反対集会： 11 回参加人数のべ 660 人
- ニュース発行：「好きです三木町」22 回, 号外 3 回
- ちらし配り：参加した人 450 人
- 住民投票： 参加もしくは応援すると書いた人 170 人  
(残念ながら住民投票はせずに終結しました。  
実現していたらもっと増えたでしょう)
- カンパ総額： 127 万 332 円
- その他バザ - 等への品物提供多数
- ホ - ムベ - ジ アクセス件数：5,450

一人一人ができることを、できる場所で実行しました。それらが結集してポ - トピアを止めたのです。五年間素晴らしい時間を共有できたことをうれしく思います。

### 場外舟券売り場設置問題 三木町長が「自然消滅」

「反対派住民に『終結宣言』」

三木町への丸亀競艇の場外舟券売り場(ポートピア)を話して、事実上の「終結宣言」をしたことが二十八日、分かった。

「まちと人を守る連絡会議」(三木雅博代表世話人)や桑井明人・町議会議長らによると、反対派四グループのメンバー七人が二十七日、町役場に町長を訪ねて懇談。石原町長は「丸亀市からの動きがなく、自然消滅したと思っている。(設置の)可能性はなく、この問題が再燃することもない」と語ったという。

丸亀市の谷本征治・競艇事業部長は「まだ可能性があるなら努力はしたいが、三木町との話し合いは止まったまま」としている。連絡会議事務局の山崎千津子さんは「反対を訴え続けてきた成果」と話している。

「ポートピアの設置を巡っては、丸亀市が、売り上げの1%を町に協力金として交付する条件を示したのに対し、町は1・5%とするよう要望。丸亀市が難色を呈し、協議は暗礁に乗り上げた。」

発表 2001/6/29

## 2001年

1月31日(水): 三木町への交付金について、丸亀市は1.0%を提示。三木町は1.5%を要求。丸亀市と三木町当局との交渉  
2月20日(火): 丸亀市に対して、三木町に計画中の場外舟券売り場建設を断念するよう要請:

クレジット・サラ金被害者の会

3月8日(木): 三木町に対して、ポートピアを容認しないよう要望書提出  
クレジット・サラ金被害者の会

### 3月末

三木ポートピア推進協議会、三木町長に「住民投票で決着を」と迫る  
推進協議会有志

5月19日(土): 三木高校PTA総会において「ポートピアについて、状況が変わった時には皆さんで考えましょう」という発言に大きな拍手  
三木高校保護者

6月11日(月): 谷本・丸亀市競艇事業部長、丸亀市議会、倉本清一議員の質問に対して「可能性があるなら努力は続ける。ポートピア設置は必要な施策」

6月27日(水): 石原収・三木町長「三木ポートピア設置問題は自然消滅したと思っている。設置の可能性はなく、この問題の再燃することもない」と語る。

反対住民グループ4団体代表と桑井明人議長、町長会談

7月10日(火): 三木ポートピア問題について、町長の「終結宣言」を報告。ポートピア設置を阻止したことを共に喜ぶ。大看板撤去(三木インター西) まちと人を守る連絡会議

## 運動の経過 2000年

9月18日(月): 三木町議会、谷本サクミ議員の一般質問。  
石原町長答弁「町からは動かない」「町に必要な施設ではない」「丸亀市は誠意がない」なお、町民からの要望書は受け取ると約束。丸亀市との条件交渉(事務レベル)は中断している。

11月23日(木): 住民投票学習会: 徳島の吉野川第十堰住民投票の会代表世話人 姫野雅義氏を招く。

まちと人を守る連絡会議

11月25日(土): 三木町長に早期開設を求める要望書を提出。  
丸亀ポート場外舟券売り場建設推進協議会

12月1日(金): 丸亀市競艇事業担当前田邦雄・第二助役辞任。第二助役制廃止。谷本征治氏、競艇事業部長に就任

12月13日(水): 丸亀市が三木ポートピア推進協議会発行の施設概要説明のパンフレットに不適切な記述があるとして、配布を差し止めるよう、同協議会に口頭で注意。(谷本征治事業部長が丸亀市議会において答える)

12月15日(土): 舟券売り場建設反対の要望書を三木町長に提出  
平井校区住民有志 70名

12月18日(月): 石原収・三木町長「町への交付金は、売上額の1.5%でないと前向きに話を進められない」

12月定例町議会答弁

## 当たり前の結果・・・

「なぜ推進するのですか？」

三木町のポートピア問題にかかわってほぼ三年。かつての石原町長をはじめ、計画を進めようとする人たちにこつ尋ね続けましたが、ついに説得力ある説明はありませんでした。

いつまでもなく、ポートピアは丸亀市が運営する公営賭博場で、三木町が受け入れを認めなければ誘致できないという公共性の高いものです。にもかかわらず、計画の内容が公の場で一度たりともまともな形で明らかにされたことはなく、なぜ作るのか、誰にどついつ利点があるのか、または不利益があるのかという町民を説得するだけの根拠となる、調査「あるいは「研究」もありません。

一九九八年九月の町議会で、石原町長や推進派の議員のみならず、何の根拠もなく、ひたすら誘致案の議決を働きかけました。ですから三木町にとってこの問題は、賛否を問う以前の話であって、とにかく訳がわからないまま計画が進もうとするから、「おか

しい」「わからない」という声が当然起きる。それが反対運動の源流となったわけです。

こうした経緯を振り返りますと、理由すらまともな説明できない計画がとん挫したのですから、喜ばしいとは言え、当たり前の結果といえましょう。

さて、辺りを見渡せば、この当たり前のことが当たり前にいかない矛盾がいかに多いことが書き出せば切りがありませんが、私事でいえば、さしあたって「年休がとれない」という矛盾に直面しています。

当たり前のことを当たり前と主張することは、「世の中そんなものだ」と知ったかぶりをするよりはるかに勇気のいることですし、まして矛盾をただして当たり前の結果を導くことは、これはもう大変なことです。当たり前のことを勇気をもって言い続けたみなさんに敬服します。

(三宅 勝久)



## ヘビとカエルの五年戦争

### 七年かかるかなと思っていたら五年で終結

今までのあらすじ：今は昔、遠いお城のある町から城下ヘビたちがやってきました。三木池の母親ガエルは、オタマジャクシを守ろうと高い堀を築いて戦ってきました。ヒキガエルは穴を開けてヘビたちを中に入れようしました。ヘビの持ってきたお土産に目がくらんだのです。アマガエルと母親ガエルは団結してトノサマガエルに訴えました。「オタマジャクシとアマガエルのために三木池を守ってください」



春になりました。三木池のアマガエルたちは、ヘビたちやヒキガエルたちは、もうあきらめてしまったのかと思っていました。しかし、そうではなかったのです。

ヒキガエルたちは堀に穴をあけようと跳び回っておりましてし、ヘビたちは何とか中に入ろうと声をかけておりました。それを聞きつけた勇気あるアマガエルたちは「一戦交えねばならぬか。」と覚悟を決めました。

同じ頃、トノサマガエルは考えあぐねておりました。もうヘビたちを三木池の中に入れとうないんじゃ。何とかヘビたちが諦めるよう、あちこちのヒキガエルを説得するしかないのう。

三木池にも夏がやってきました。ある日、アマガエルたちはトノサマガエルにこう言われました。「もうヘビたちは来んよ。また来たいと言うても、私は入れんけん。もうこの話はお終いじゃ。」トノサマガエルは晴々と宣言しました。



そうです。城下ヘビはお城の下へ帰っていったのです。

そうしていると、オタマジャクシたちが立派に成長して若いアマガエルとなって言いました。「ヘビたちのことを全部教えてください。三木池の堀が造られた話や守られた話を聞かせてください。」

こうして三木池の話は長く言い伝えられ、ヘビたちはいつそう来にくくなりましたとき。



### 運動を振り返って よかったこと

あの人は賛成派？反対派？と議員の動向に注目が・・・  
三木町議会をたびたび傍聴しました。ボ・トピア問題が町民の関心を集めているため、住民の願いを代弁してくれる議員さんが増えてきました。今では半数以上の方が住民側に立って行政に向かい合ってくれています。三木町議会は「住民に顔を向け始めた」とある記者さんが言いました。中でも終始「ボ・トピアは町民を幸せにしない」と主張し続け、議会で活躍して下さった町議さんは、桑井 明人、谷本 サクミ、西丸 一明、山本 繁 各氏です。（山崎）

### 残念だったこと

#### PTA活動は誰のため？

私は1997年頃PTAの役員でした。ボ・トピアは子供の教育環境を損なうという思いから反対署名を寒風の中、家々を回って集めました。しかしその後一部の役員さんが「学校にご迷惑をかけられない」と言って、この件については、話し合いもできない雰囲気になったのはなぜでしょう。PTA活動はバザ-の手伝いやベルマ-クの切り抜きをすることでしょうか。子供が本当に難儀をするかもしれない事態に親として何も言えないというのは、今も納得できません。他の県ではPTAが立ち上がってボ・トピアを止めています。子供を取り巻く環境は大人が守る必要があります。子供たちは親の後姿をじっと見ているものです。PTAは学校や町当局の都合で動くものではなく子供の側に立って行動するのが本来のあり方だと思うのですが・・・

一保護者



「とうとう(ボ-トピア計画を)つぶしてしもうたな。みんなの力やな。大したもんや。」  
とつぶやく ある町議さん

香川初の住民投票が実現していたら三木町もうんと変わったでしょうね。こんな問題が起こったら今度こそやりましょう。手伝います。  
平木40代女性

ボ-トピア消滅? あ-よかった、よかった。子どもが通う道にこれ以上車が増えたらかなわんです。  
池戸30代女性

## 反響続々

ボ-トピア問題消滅の報道(6/29から7/11)以来多くの方が喜びの声を寄せて下さいました



町長さんもこれでほっとされたやろ。これからはボ-トピアのない三木町で老人にも住み良い町づくりを進めていきたい。それなら応援しますよ。  
氷上60代男性



推進派の町議のいる地元では最初ものが言いにくい雰囲気になった。どんなギャンブル施設かという説明もなかった。頼んで来てもらう施設ではないわ。ギャンブルで地元活性化とは人が笑うわ。集落推薦という町議の出し方も考え直さないかん  
井上50代男性

**編集後記** 丸亀の市長さんが三木町へのボ-トピア設置について「可能性があるなら努力したい」と言っているそうです。「まだ火種は残っているのかしら?」と心配する方もいらっしゃると思いますが、ここは三木町長さんの「再燃の可能性はない」という明快な言葉があります。首長の拒否、多くの町民の不同意この二つがそろったわけですから丸亀の進出の芽はなくなりました。丸亀市長には、その旨、FAX、メール、投書等で知らせてあげましょう。

それにしても最後に消滅宣言をして下さった町長さん。多くの住民の意思をくみ取り始めた議会。今回のことで私たちは学びました。町に起こる問題を人まかせにせず自分のこととして考え発言し行動することで町は変わると。たくさんの人に出会いました。三木町をより好きになりました。

またいつかどこかでお会いしましょう。

高校生グループが三木町のボ-トピア問題についてレポートを書いたそうです。皆さんの中で興味のある方は、ご連絡ください。資料等差し上げます。夏休みの自由研究のテーマにはいかがが---

「私たちの町に起こったこと」

ニュース「好きです三木町」は今号をもってしばらく休刊します。

**まちと人を守る連絡会議事務局** 山崎 千津子  
〒761-0701 香川県木田郡三木町池戸1726-3  
TEL: 087-898-6095; FAX: 087-840-2128  
Email: sequoia@mail2.netwave.or.jp  
<http://www2.netwave.or.jp/~sequoia/>  
カンパの振込先: 114銀行医大前支店口座番号0102673  
まちと人を守る連絡会議